

陸連時報 五三

2019
令和元年

5 月号

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

目 次

2019年度主要競技会日程	182
理事会報告	183
第3回アジアユース陸上競技大会報告(日本陸上競技連盟 強化育成部コーディネーター 岩瀧一生)	186
国際陸連ヘルス&サイエンスコミッション会議2019報告(日本陸上競技連盟 医事委員長 山澤文裕)	187
国際陸上競技連盟(IAAF)競歩委員会 会議報告 (日本陸上競技連盟 強化委員会男女競歩オリンピック強化コーチ 今村文男)	188
2018-2019ダイヤモンドアスリート第4回リーダーシッププログラム報告 (ダイヤモンドアスリートコーディネーター 田原陽介)	189
第1回日本陸連アスリート委員会・研修会報告	190
2019JRDM活動報告	191
大会観戦ガイド	194
陸協NEWS	196
事務局からのお知らせ	198

公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものですが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わさせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

2019年度主要競技会日程

主催・共催競技会			主要競技会			国際競技会		
期日	競技会名	場所	期日	競技会名	場所	期日	競技会名	場所
4月	14(日) 103 日本選手権50km競歩	石川	14(日) ★ GP 金栗記念選抜中・長距離	えがお健康スタジアム(熊本)	21(日)~24(水) 23 アジア陸上競技選手権	ドーハ(カタール)		
	21(日) 21 長野マラソン	長野	20(土)~21(日) ★ GP 出雲陸上	県立浜山公園(島根)				
5月			20(土)~21(日) ★ GPP TOKYO Combined Events	駒沢(東京)	11(土)~12(日) IAAF世界リレー	横浜国際総合(神奈川)		
	19(日) ゴールデングランプリ	ヤンマースタジアム長居(大阪)	21(日) ★ GPP 兵庫リレーカーニバル	ユニバー記念(兵庫)				
	19(日) 103 日本選手権男女10000m	ヤンマースタジアム長居(大阪)	27(土)~28(日) ★ GPP 織田記念陸上	広域公園(広島)				
6月	65 全日本中学通信陸上	各地	2(日) ★ GP 布勢スプリント	布勢総合(鳥取)	4(火) アジアグランプリ①	重慶(中国)		
	103 日本選手権混成	長野市営(長野)	7(金)~9(日) ○ '19 日本学生個人	Shonan BMW スタジアム平塚(神奈川)				
	8(土)~9(日) 35 U20日本選手権混成	長野市営(長野)	30(日) ★ 34 サロマ湖100kmウルトラマラソン	北海道				
7月	27(木)~30(日) 103 日本選手権	博多の森(福岡)	7(日) ★ GP 南部記念陸上	厚別(北海道)	8(月)~13(土) 30 ユニバーシアード	ナポリ(イタリア)		
			27(土) ★ 59 実業団・学生対抗	Shonan BMW スタジアム平塚(神奈川)				
8月	4(日)~8(木) 72 全国高校陸上	沖縄県総合(沖縄)	4(日) ★ 44 蔵王坊平クロスカントリー	上山(山形)	23(金)~29(木) 27 日・韓・中ジュニア交流競技会	長沙(中国)		
	10(土)~12(日) 54 全国定通制高校陸上	駒沢(東京)						
	10(土) 35 全国小学生陸上	日産スタジアム(神奈川)						
	17(土)~18(日) 54 全国高専陸上	広域公園(広島)						
9月	21(水)~24(土) 46 全国中学陸上	ヤンマースタジアム長居(大阪)	25(日) ★ '19 北海道マラソン	北海道	27(金)~10(日) 17 世界陸上競技選手権	ドーハ(カタール)		
	31(土)~9(日) 7 全国高校陸上選抜	ヤンマーフィールド長居(大阪)						
10月	15(日) マラソングランドチャンピオンシップ	東京	12(木)~15(日) ○ 88 日本学生対校	長良川(岐阜)	調整中	17 アジアマラソン選手権	中国内(予定)	
	4(金)~8(火) 74 国民体育大会	笠松運動公園(茨城)	13(金)~16(月) 40 全日本マスターズ	正田醤油スタジアム(群馬)				
	11(金)~13(日) 50 ジュニアオリンピック	等々力(神奈川)	20(金)~22(日) 67 全日本実業団	ヤンマースタジアム長居(大阪) / ヤンマーフィールド長居(大阪)				
	18(金)~20(日) 35 U20日本選手権	広域公園(広島)	14(月・祝) ○ 31 出雲全日本大学選抜駅伝	島根				
	18(金)~20(日) 13 U18日本選手権	広域公園(広島)	19(土) ★ GP Denka Athletics Challenge Cup	デンカビッグスワン(新潟)				
11月	26(土)~27(日) 103 日本選手権リレー	北九州市本城(福岡)	20(日) ★ GP 田島記念陸上	維新百年記念(山口)				
			26(土)~27(日) ★ GP 北九州陸上カーニバル	北九州市本城(福岡)				
			27(日) ○ 37 全日本大学女子駅伝	宮城				
12月	1(日) 73 福岡国際マラソン	福岡	3(日) ○ 51 全日本大学駅伝	愛知・三重				
	8(日) 5 さいたま国際マラソン	埼玉	10(日) ★ 35 東日本女子駅伝	福島				
	8(日) 22 小学生クロスカントリーリレー	万博記念公園(大阪)	17(日) ★ 9 神戸マラソン	兵庫				
	15(日) 27 全国中学駅伝	希望が丘(滋賀)	24(日) ★ 39 全日本実業団女子駅伝	宮城				
	22(日) 70 31 全国高校駅伝	京都	1(日) ★ 9 大阪マラソン	大阪				
2020年1月	12(日) 38 都道府県対抗女子駅伝	京都	8(日) ★ '19 長崎陸協競歩	県立総合(長崎)				
	19(日) 25 都道府県対抗男子駅伝	広島	15(日) ★ 38 山陽女子ロードレース	岡山				
2月	26(日) 39 大阪国際女子マラソン	大阪	30(月) ○ '19 全日本大学女子選抜駅伝	静岡				
	1(土)~2(日) '20 日本室内陸上大阪	大阪城ホール(大阪)	2(日) 69 別大マラソン	大分				
			2(日) 74 香川丸亀国際ハーフマラソン	香川				
	9(日) 5 全国中学生クロスカントリー	希望が丘(滋賀)	9(日) 60 唐津10マイル	佐賀				
	9(日) 48 実業団ハーフマラソン	山口	9(日) 31 全日本びわ湖クロスカントリー	希望が丘(滋賀)				
	9(日) 103 日本選手権20km競歩	兵庫	16(日) 54 青梅マラソン	東京				
	16(日) 103 日本選手権クロスカントリー	海の中道海浜公園(福岡)	16(日) '20 熊本マラソン	熊本				
22(土) 35 U20日本選手権クロスカントリー	海の中道海浜公園(福岡)	16(日) '20 京都マラソン	京都					
3月	1(日) '20 東京マラソン	東京	8(日) ○ 23 日本学生ハーフマラソン	東京	調整中	24 世界ハーフマラソン選手権	グデーニャ(ポーランド)	
	8(日) '20 名古屋ウィメンズマラソン	愛知	15(日) ○ 14 日本学生20km競歩	石川				
	8(日) 75 びわ湖毎日マラソン	滋賀	15(日) ○ 23 日本学生女子ハーフマラソン	島根				
	15(日) 44 全日本競歩能美	石川						

★=後援競技会、○=協力団体主要競技会

※アジア室内選手権 日程/場所(未定)

理事会報告

第53回理事会

日時：2019年3月14日（木）

14時00分～16時17分

場所：新宿ワシントンホテル 新館4階 桜

理事総数30名中出席者27名にて、理事会の成立を風間事務局長が報告。横川会長が挨拶を行い、引き続き、議事進行に入る。

【協議事項】

1. 第9期事業計画・収支予算

尾縣専務理事より事業計画が、小手川財務委員長より収支予算が、資料に基づき説明があり、原案通り承認された。

【第9期事業計画】

第9期事業計画における重点事項は下記の通り。

(1) 東京2020オリンピックへのラストスパート

- ❖東京2020オリンピック前年として「メダル・入賞」をターゲットとしつつも、「オリンピックの舞台に立つアスリートの最大化」を視野に入れた競技力強化戦略を展開する。

【東京2020オリンピックに向けた方針】

・メダル、入賞を一つでも多く

・舞台に立つアスリートを一人でも多く

- ❖2019年度におけるターゲット競技会は、ドーハ世界陸上競技選手権及びマラソングランドチャンピオンシップ（MGC）である。

- ❖IAAF世界リレー2019横浜大会を成功裏におさめ、東京2020オリンピックを含めた今後の国際競技会開催への運営力の蓄積と向上を図る。

(2) 競技者育成指針の理念に基づく指導者制度改革

2018年に策定した競技者育成指針の理念に基づき、指導者養成の方法、資格の義務化、指導者登録システム等の策定を行い、質の高い指導者制度を目指す。

(3) アンチ・ドーピング活動と鉄剤注射行為に対して

- ❖東京2020オリンピックまで、もう一人たりともアンチ・ドーピング規則違反事例を出さないよう、更なる教育啓発活動を推進する。

- ❖安易な鉄剤注射行為に対して、本連盟として毅然とした効果のある対応を示す。

(4) 登録制度の抜本的な見直し

「JAAF VISION 2017」に掲げるJAAFファミリーの拡大のために、競技者登録、審判登録、記録管理等を統合する基幹システムの開発と、抜本的な見直しを行う。

(5) ウェルネス陸上の実現に向けたJAAF RunLinkの本格展開

「JAAF VISION 2017」に謳うJAAFミッションの柱、ウェルネス陸上の実現のアクションとして昨年、設立し

たJAAF RunLinkを本格的に事業展開する。ランニング文化を昇華させ、ポスト東京2020以降も持続可能な事業体として、アスレティックファミリーの拡大に貢献する。

(6) ガバナンス強化とコンプライアンスに関する積極的な取り組み

スポーツ界は昨今、スポーツ・インテグリティ（高潔性）を脅かす事案が多く発生し、社会問題となっている。この問題は、NFとしての団体存続と将来の展開に極めて重要な問題であるということを変えて認識し、ガバナンス体制の強化、コンプライアンスに関する積極的な取り組みを図り、自ら行動で示す。

【第9期収支予算】

経常収益31億2,590万円、経常費用40億8,700万円、当期経常増減額は△8億8,280万円となる。

(1) 経常収益

①基本財産運用収益は666万円。基本財産12億円に対する利息収入。

②登録料受入収益は2,670万円。登録会員からの登録料収入は、一般と大学生が各100円、高校と中学生が各50円。第8期から微増の登録者数を見込み、算出した。

③加盟金受入収益は470万円。1加盟団体から10万円の加盟金を納めて頂いている。

④受取寄付金はなし。

⑤受取委託金・助成金は、4億8,948万円。日本スポーツ協会、日本オリンピック委員会、日本スポーツ振興センターからの委託金・補助金・助成金収入。

⑥事業収益は25億4,356万円。オフィシャルスポンサー料と競技会での協賛金、参加料、入場料収益、放送権料等が主な収入。

⑦その他事業収益は3,559万円。器具検定料、競技場公認料、後援名義使用料等の収入。

(2) 経常費用

①事業費は38億5,966万円。競技会予算、委員会予算、マーケティング予算、広報予算、加盟団体等への地域活性化助成金、イベント等に関する費用。

②管理費の事務局運営費等は1億4,904万円。

(3) 各委員会予算

総務企画委員会20万円、強化委員会5億8,000万円、法制委員会10万円、財務委員会20万円、競技運営委員会2,917万円、普及育成委員会6,500万円、施設用器具委員会1,374万円、科学委員会1,500万円、医事委員会1,961万円。

2. 2019年度主要競技会日程

尾縣専務理事より資料に基づき説明があり、原案通り承認された。詳細は、本時報182頁参照。

3. 2018年度栄章

尾縣専務理事より資料に基づき説明があり、原案通り承認された。

功労章3名、秩父宮章35名、高校優秀指導者章47名、中学優秀指導者章47名、高校優秀選手章47名、中学優秀選手章47名、日本記録章11名、室内日本記録章延べ3名、U20日本記録章延べ6名、U20室内日本記録章2名、U18日本記録章5名。

4. 栄章規程の改正

尾縣専務理事より資料に基づき説明があり、栄章規程の改正が原案通り承認された。

[改正箇所] _____部分改正

❖アスレティックス・アワード新人賞の枠を拡大する。

第2条 (対象)

本連盟が授与する栄章の種類、対象及び個数をつぎの通り定める。

(1) アスレティックス・アワード

③新人賞

当年の活躍が顕著であり、将来が期待される競技者4名以内（東京運動記者クラブ選出の競技者男女各1名以内と本連盟選出の競技者男女各1名以内）に授与する。

❖功労章の推薦基準として事務局長を対象とする。

❖秩父宮章の推薦基準として事務局長を対象とする。

5. 専門委員会運営細則の改正

山澤医事委員長より資料に基づき説明があり、医事委員会にスポーツ栄養部を設置することによる医事委員会所管事項の修正に伴う専門委員会運営細則の改正が原案通り承認された。

6. 特定費用準備資金等取扱規程の制定

尾縣専務理事より資料に基づき説明があり、特定費用準備資金等取扱規程の制定が原案通り承認された。

7. ドーハ2019世界陸上競技選手権大会

トラック&フィールド種目日本代表選手選考要項の改正

麻場強化委員長より資料に基づき説明があり、ドーハ2019世界陸上競技選手権大会トラック&フィールド種目日本代表選手選考要項の改正が原案通り承認された。詳細は本連盟WEBサイト https://www.jaaf.or.jp/files/upload/201812/18_144136.pdf 参照。

8. 2019年度強化競技者規程

麻場強化委員長より資料に基づき説明があり、2019年度強化競技者規程が原案通り承認された。(資料1参照)

9. 公認審判員規程の改正

鈴木競技運営委員長より資料に基づき説明があり、A級公認審判員からS級公認審判員への昇格対象となる年齢を60歳から55歳に引き下げることの公認審判員規程の改正が原案通り承認された。2019年度の昇格審査より適用とする。

10. 競技会における広告及び展示物に関する規程の修改正

鈴木競技運営委員長より資料に基づき説明があり、競技会における広告及び展示物に関する規程の修改正が原案通り承認された。

11. 評議員会の開催

尾縣専務理事より、評議員会の開催について資料に基づき説明があり、定時評議員会として2019年6月14日(金)15時から、評議員会として同日16時30分からの開催が承認された。

【報告事項】

1. 日本グランプリシリーズ要項

尾縣専務理事より資料に基づき、2019年度日本グランプリシリーズ要項が報告された。詳細は本連盟WEBサイト <https://www.jaaf.or.jp/gp-series/> 参照。

2. IAAF世界リレー 2019横浜大会

日本代表選手選考要項の改正

麻場強化委員長より資料に基づき、来る5月11日(土)、12日(日)に神奈川県横浜市・横浜国際総合競技場で開催のIAAF世界リレー 2019横浜大会のエントリー期日の決定に伴い、男女4×100mリレーの参考競技会として指定されていた「第53回織田幹雄記念国際陸上競技大会」を「吉岡隆徳記念第72回出雲陸上競技大会」に変更する日本代表選手選考要項の改正が報告された。詳細は本連盟WEBサイト https://www.jaaf.or.jp/files/upload/201812/18_145851.pdf 参照。

3. 2019年度強化競技者

麻場強化委員長より資料に基づき、ゴールドアスリート14名、シルバーアスリート4名の2019年度強化競技者が報告された。

ゴールドアスリート(14名): 飯塚翔太(ミズノ)、桐生祥秀(日本生命)、ケンブリッジ飛鳥(ナイキ)、多田修平(住友電工)、藤光謙司(ゼンリン)、サニブラウン・アブデル・ハキーム(フロリダ大学)、松永大介(富士通)、高橋英輝(富士通)、山西利和(愛知製鋼)、池田向希(東洋大学)、荒井広宙(富士通)、小林快(東京陸協)、丸尾知司(愛知製鋼)、野田明宏(自衛隊体育学校)

シルバーアスリート(4名): 戸邊直人(JAL)、大迫傑(ナイキオレゴンプロジェクト)、藤澤勇(ALSOK)、松田瑞生(ダイハツ)

4. 2019年度S級公認審判員昇格者

鈴木競技運営委員長より資料に基づき報告された。都道府県陸上競技協会からの推薦者293名に対して2019年度S級昇格者は292名であった。

5. 2019年度競技規則の修改正

鈴木競技運営委員長より資料に基づき報告された。

6. 鉄剤注射に関して

尾縣専務理事及び山澤医事委員長より、鉄剤注射に関する取り組みについて報告があった。具体的には、去る2月10日に開催された臨時全国医務部長会議での会議内容(これまでの経緯、鉄欠乏・鉄欠乏性貧血、ジュニア障害調査、鉄剤注射の功罪、日本医師会・スポーツ庁の取り組み、スポーツ栄養の観点)及び2019年度全国高校駅伝出場校に対して血液検査の結果の提出を求めることが報告された。

【資料1】

強化競技者規程

(目的)

第1条 公益財団法人日本陸上競技連盟（以下「本連盟」という。）は、第32回オリンピック競技大会（2020／東京）において、メダル獲得及び8位入賞が期待されると本連盟が認定した競技者の、本連盟の強化方針に沿った個人強化活動の充実を図るために本規程を定める。

の趣旨に照らし、本連盟強化委員会が必要と認めるときは、本連盟強化委員会は、指定された期間の中途であっても、指定を解除し、または処遇の変更をすることができる。

(指定の解除)

第5条 本連盟強化委員会は、強化競技者が、次のいずれかに該当するときは、年度途中でであっても、指定を解除し、または強化費の使用を停止することができる。

(格付けの基準)

第2条 強化競技者の格付けは2ランクとする。

- (1) ゴールドアスリート
 - ①強化競技者指定対象国際競技会で8位以内に入賞、またはリレー種目でメダルを獲得した競技者。
 - ②強化競技者標準記録対象競技会においてゴールドアスリート指定標準記録を満たした競技者。
- (2) シルバーアスリート
 - ①強化競技者指定対象国際競技会のリレー種目で8位入賞した競技者。
 - ②強化競技者標準記録対象競技会においてシルバーアスリート指定標準記録を満たした競技者。
- 2 強化競技者指定対象国際競技会、強化競技者標準記録対象競技会及び指定標準記録は、年度毎に本連盟が別に定めるものとし、本連盟は、これを年度途中においても、見直すことができるものとする。

- (1) 引退した競技者
- (2) 長期間競技会に出場していない競技者
- (3) 居場所情報の提出義務違反や検査未了等、アンチ・ドーピングの理念に反する行動をとった競技者
- (4) 第7条に違反した競技者
- (5) 強化競技者契約に違反した競技者
- (6) その他、本連盟強化委員会が強化競技者として不適切であると判断した競技者

(処遇)

第6条 強化費は、ゴールドが年間400万円、シルバーが年間150万円を上限とし、資格付与の時期により金額は異なる。
なお、強化競技者の処遇の詳細は、本連盟が別に定める。

(強化競技者の義務)

第7条 強化競技者の指定を受けようとする競技者は、次に定める義務を遵守することを承諾すると共に、本連盟との間で、別途、強化競技者契約を締結しなくてはならない。

(資格の付与)

第3条 本連盟強化委員会は、競技者が第2条のいずれかに該当し、かつ、当該競技者が第7条に定める強化競技者の義務を遵守することを承諾し、かつ本連盟との間で強化競技者契約を締結することを条件として、当該選手に対し、強化競技者として資格を付与する。

- (1) 本制度の目的に即して、競技力の向上に努める。
- (2) 正当な理由がある場合を除き、本連盟強化委員会が指定する国際大会に出場する。
- (3) 正当な理由がある場合を除き、本連盟強化委員会が指定する行事に参加する。
- (4) 原則として年1回、本連盟強化委員会が指定する測定及びメディカルチェックを受診する。
- (5) アンチ・ドーピングに関わる全ての基準を適正に順守する。
- (6) 本連盟強化委員会に対し、定められた時期に強化計画の提出と活動実績の報告をする。
- (7) 本連盟強化委員会が必要とした面談に応じる。
- (8) 日本を代表するトップアスリートとして自覚を持ち、メディアからのインタビュー、取材及び撮影などを受けるときは、身だしなみや服装に注意し誠実に対応する。
- (9) メディアへの対応、肖像権等に関する義務は、本連盟が別に定める。

(指定の期間)

- 第4条 ゴールドアスリートの指定期間は、資格を付与された日（以下「資格付与日」という。）の翌日から資格付与日が属する事業年度の翌事業年度の末日までとする。
- 2 シルバーアスリートの指定期間は、資格付与日の翌日から資格付与日が属する事業年度の末日までとする。
- 3 前各項にかかわらず、資格付与の要件若しくは処遇について本規程が改定され、又は、第2条第2項に基づいて本連盟が指定する競技会若しくは標準記録の年度毎の指定若しくは年度途中における見直しがなされた場合において、改定後の規程又は、競技会若しくは標準記録の新年度における指定若しくは年度途中の見直し

2019年度強化競技者指定に関する対象競技会

1. 強化競技者指定対象国際競技会
 - (1) ジャカルタ2018アジア競技大会
 - (2) ドーハ2019世界陸上競技選手権大会
2. 強化競技者標準記録指定競技会

2019年度の新たな指定は、2019年4月1日～2020年3月31日までの下記競技会を対象とする。

 - (1) 国際競技会
 - 1) ドーハ2019世界陸上競技選手権大会
 - 2) ドーハ2019アジア陸上競技選手権大会
 - 3) 南京2020世界室内陸上競技選手権大会
 - 4) IAAF DIAMOND LEAGUE 2019
 - 5) IAAF WORLD CHALLENGE 2019（セイコーゴールデングランプリ陸上2019大阪含む）
 - 6) IAAF CHALLENGES 2019（混成競技、競歩、ハンマー投）
 - 7) IAAF WORLD INDOOR TOUR 2020
 - 8) World Marathon Majors
 - 9) IAAF Label Road Race
 - 10) 2019アジアグランプリ
 - 11) ナポリ2019ユニバーシアード競技大会
 - 12) ドーハ2019世界陸上競技選手権大会又は東京2020オリンピック競技大会の日本代表選考要項で指定された選考競技会
 - 13) ヨーロッパ陸連公認Premium Meetings / Classic Meetings / Area Permit Meetings
 - 14) 本連盟が日本代表として派遣した、上記以外の国際競技会
 - (2) 国内競技会
 - 1) 第103回日本陸上競技選手権大会
 - 2) 2019日本グランプリシリーズ（グランプリプレミア・グランプリ）
 - 3) ホクレンディスタンスチャレンジ2019

2019年度 強化競技者標準記録

男子		種目	女子	
ゴールド	シルバー		ゴールド	シルバー
9.88	9.93	100m	10.82	10.89
19.88	19.98	200m	22.10	22.29
44.05	44.46	400m	49.87	50.19
1.43.17	1.43.49	800m	1.57.30	1.57.81
3.30.44	3.31.91	1500m	3.58.03	4.00.21
12.56.29	13.01.97	5000m	14.32.21	14.48.89
27.01.83	27.11.07	10000m	30.39.37	31.05.17
8.05.92	8.13.81	3000mSC	9.10.02	9.19.38
13.06	13.14	110mH/100mH	12.55	12.64
48.08	48.32	400mH	53.80	54.26
8.38	8.30	走幅跳	7.01	6.90
17.46	17.25	三段跳	14.67	14.49
2.36	2.33	走高跳	1.99	1.97
5.90	5.80	棒高跳	4.82	4.74
21.75	21.39	砲丸投	19.85	19.06
67.91	66.88	円盤投	66.93	65.33
79.39	78.53	ハンマー投	75.42	74.52
88.60	86.73	やり投	66.45	65.33
8567	8446	十種競技/ 七種競技	6595	6487
2:04:34	2:07:16	マラソン	2:20.49	2:22.30
1:18:39	1:19:21	20km競歩	1:26.27	1:27.46
3:41:28	3:42:59	50km競歩		

※ゴールドは世界ランク4位平均、シルバーは8位平均
 ※世界Rank4位、8位の記録は2013、2015、2016、2017の平均記録で算出
 ⇒アジア競技大会開催年の記録は平均の対象外とする。

第3回アジアユース陸上競技選手権大会 報告

日本陸上競技連盟 強化育成部 コーディネーター 岩瀬 一生

1. はじめに

第3回アジアユース陸上競技選手権大会が3月15日から17日まで、香港で開催された。若年層の競技者に国際大会を経験させることを目的とし、日本選手団は、男子13名、女子13名、役員11名で構成された。今回は開催時期が3月中旬ということで、2018年度の成績から11月に対象候補選手を選考し、強化育成部で行われる、11月の測定合宿、1月の研修合宿、2月の海外合宿（台湾で競技会参戦）と事前に準備を行い、最終的に選手団を結成し日本選手団派遣となった。

3月11日に前泊のホテルで行われた結団式では、小林隆雄監督より「最大限力を発揮し、今後も活躍できる競技者に成長してほしい」との挨拶があった。また、今大会の男子キャプテンは池田成諒選手（島原高等学校）、女子キャプテンは上田万葵選手（舟入高等学校）が任命された。

2. 生活環境

香港の気候は、気温18～22度、湿度50～60%という比較的涼しい環境であったが大会当日は雨の影響もあり肌寒くもあった。競技場は、ホテルからバスで30分程度（渋滞時は50分程度）に位置していた。ホテルから競技場までのシャトルバスが午前セッションの間は30分に1本でいたが、午後は競技場からホテルへ戻るバスしか設定されていなかったため、移動の部分では苦労した。食事は3食ともビュッフェスタイルで展開されたが、競技会が始まるとホテルでは昼食が取れず、ランチボックスでの対応であった。ただ、量・味ともに申し分なく選手からの不満はなかった。コンビニやスーパーマーケットは、ホテル、競技場から徒歩圏内にあり特に不自由を感じることはなかった。

3. 大会運営状況

アジアで開催される競技会はタイムテーブルの変更など急遽対応しなくてはならないことが多い。こういった状況に柔軟に対応しなければ、ベストパフォーマンスは発揮できない。試合前のミーティングでは、監督や各コーチからこの点についての対応方法や、心構え、現在自分たちの置かれている状況等が丁寧に説明された。

タイムテーブルや招集時間は一応は決まっているものの、その場の状況に応じて簡単に変更されてしまうため、常に最新の情報を手に入れ、変更に応じて即座に対応でき

るよう準備した。表彰式の時間やシャトルバスの時間もろくなため、時間に余裕をもって行動することが必要となる。

また、ウォームアップエリアは一周300m程度のトラックであり、他国の選手は走る向きも気にせず疾走してくるため、コーチ陣がしっかりと危機管理を行い対応した。チームテントはしっかりしたものが多く、雨風をしのぐことができ特に不便を感じることはなかった。

4. 競技成績

今大会の日本選手団の成績は、金メダル6個、銀メダル8個、銅メダル6個、派遣選手23名（24種目）でメダルを含めすべての選手が入賞することができた。

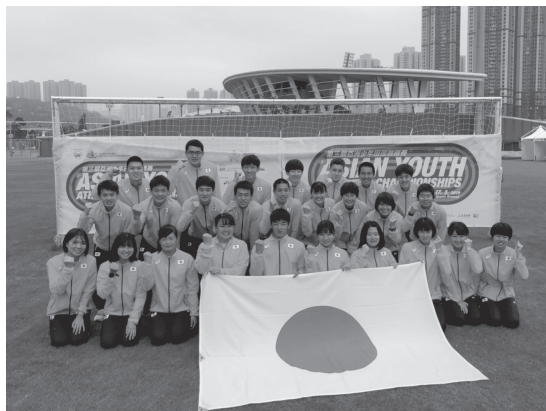
多くのメダルを獲得することができたが、そのメダルの中にも、健闘して獲得できたものもあれば、逆にPBからいくと本当は上のレベルのメダルを獲れたのではないかというものもあった。いずれにしても、今回到達したレベルを基準にして、U20やシニアへしっかりと積み上げていけるかが課題となる。

5. 最後に

アジアユース選手権は本大会が3回目の開催となる。各国とも選手選考や派遣について様々な戦略で行っているようであった。日本選手団としても、U18世界選手権の廃止に伴い、本大会がU18の競技者にとって重要な競技会となる。そのため、選手選考は18年度の成績を加味し、選手選考を行った。今後のこの大会における、派遣規模については検討しなければならなかったが、派遣選手全員が入賞することができたのは大きな収穫であった。

今回帯同していただいた監督はじめコーチングスタッフには、競技者が最高のパフォーマンスを発揮できるよう、あらゆる面でご配慮いただいたことに感謝申し上げたい。また、金子ドクター、大桃トレーナーには、代表選手が決まった段階から細やかな対応をしていただいた。国際大会が初めての選手にも大変心強いサポートであったことは、メダル獲得数や滞在期間中に大きなケガや病気がなかったことから明らかである。

今大会に出場した競技者が、今後のジュニア・シニアの大会でも活躍し、日本の陸上競技界を牽引できる存在になることを期待し、大会報告とさせていただきます。



国際陸連ヘルス&サイエンスコミッション会議2019報告

日本陸上競技連盟医事委員長 山澤文裕

2019.2.24

はじめに

2019年2月22日、23日にモナコで行われた国際陸連 (IAAF) ヘルス&サイエンス (H&S) コミッション会議に出席した。IAAFが新たに策定した性分化障害 (DSD) 規則に対して、南アフリカのセメヤ選手が国際スポーツ裁判所 (CAS) に訴えていたが、2月22日はまさにそのCAS審判日であった。世界中のスポーツ関係者やマスメディアの耳目を集めるスポーツ裁判の最終決定はまだ先であるが、その決定によっては、陸上競技はもちろんのことスポーツ界全体に大きな影響をもたらすのは間違いないであろう。さらに、東京2020におけるDSD検査体制の構築を迫られる可能性がある。

今回のH&Sコミッション会議には、9名の全委員が参加した。委員の地域分布は、ヨーロッパ5、北米1、中南米1、アフリカ1、アジア1で、ヨーロッパからの委員が圧倒的に多い。IAAF側は、バーモン部長、アマディオ主任等が参加した。アンチ・ドーピングに関する事項は、アステティクス インテグリティ ユニット (AIU) で取り扱うため、2日間の会議はすべて医事関係の事項に限られた。重要な事項について、報告したい。

アスリートの健康診断義務化について

日本では当たり前のこととして実施されているアスリートの健康診断、特に心臓検診の義務化の検討である。世界室内陸上で競技中のアスリートの心肺停止事例があり、心臓検診早期実施の重要性が指摘されていた。日本でいうメディカルチェックのことを、英語ではPre-Participation Medical Evaluation (PPME) というが、世界陸上、室内選手権、U20選手権、クロスカントリー選手権、ハーフマラソン選手権、競歩選手権などのIAAF世界陸上競技シリーズ (WAS) に参加するアスリートに対して、2年ごとにPPMEを実施することを、競技規則に入れるようにH&Sコミッションとしてカウンシルに提言することとした。心肺に負担が大きくかかるトップアスリートの健康管理は喫緊の課題であり、心電図検査を必須項目とすることにした。2年ごとの検査に関しては、IAAFがアスリートにID番号をつけ、IAAFから6カ月前に通知することによってもれがないように実施できる体制とする。PPMEは各国陸連の責任で実施され、WAS大会に参加可能であるとの診断書を出すことになるが、各国陸連チームドクターは大会だけのドクターであるので、そのドクターに責任を持たせるのは困難である、法的な問題も起こりうる、との意見も出され、今後、実施開始時期も含め最終的なとりまとめが行われる。それぞれの国ごとに医療体制の差があるが、実施はすべての加盟陸連が同時になるであろう。

陸上競技における虐待とハラスメントの予防について

スポーツにおいて様々な虐待やハラスメントが国内外で報告されている。スウェーデンの報告では、トップアスリートの11%が競技生活において性的虐待を受けていた。IAAF H&SはU20選手権2018 (タンペレ、スウェーデン) において、参加アスリートに対して自発的な協力のもと、陸上競技における虐待とハラスメントの実態調査を実施した。男性237名、女性219名が調査に協力した。性的虐待を女性7%、男性12%が経験していた。地域ごとではアジアで性的虐待があったと訴えたアスリートの割合が最も高かった。地域ごとのカルチャーの違いが、結果に反映されたものと思われるが、アスリートおよびスポーツの健全な発育・発展のために虐待の予防は重要で、今後は各国

陸連にも広げ調査規模を拡大する予定とした。

大気汚染が競技成績に及ぼす影響について

大気汚染により認知機能の低下、心肺機能の低下が指摘されているが、陸上競技成績の低下を指摘する研究もある。例えば、女性マラソンランナーのパフォーマンスはPM10が $10\mu\text{m}^3$ 増えるごとに1.4%低下するとの報告がある。マラソンランナーは3時間の競技で、一般人の2日分の空気を体内に取り込むため、大気汚染があれば心肺に対する影響は大きいと考えられる。そこで、IAAF H&Sでは、大気汚染が競技成績に及ぼす影響についての研究を開始している。大気汚染指数 (AQI)、二酸化炭素、オゾン、窒素酸化物、硫化酸化物、PM10、PM2.5、温度、湿度など10数項目を指標として、シドニー、アジアカペラ、バルセロナなどの競技場に検出機器を設置している。世界リレーの行われる横浜の競技場にもモバイル機器を設置する予定である。室内競技ではアイススケート競技者の喘息罹患率が高いことが知られており、室内陸上においても研究を実施することとした。喘息の薬使用の有無、アスリートのアンケート調査などとあわせ、前向き調査の必要性が指摘された。アスリートの健康状態を悪化させる因子を少しでも軽減させることに繋がることを期待したい。

TUEについて

2016リオ五輪に11303人のアスリートが参加し、事前TUE付与数は143件 (全アスリートの1.2%) であった。個人メダリストの1%がTUEを付与されていたので、TUEの有無がメダル獲得に有利であったとは言えないと報告された。IAAFに対するTUE申請数は多くはないが、最近では、限られた国からADHD (注意欠如・多動性障害) に係る申請を多く経験している。不適切な診断が多く、付与できない事例も多い。しかも、WADA統計で興奮剤申請は全体の19%もあり、NADOレベルでは安易なTUE付与が行われている可能性がある。

研修会の実施について

ドーハ2019、東京2020と厳しい暑さのなかで競技会が実施されるため、熱中症予防はパフォーマンス低下のみならずアスリート、観客の健康を守る観点より非常に重要である。暑熱環境への馴化は2週間かかることの教育啓発を指導者やアスリートに強調するとともに、運動時の熱中症に対する世界標準の治療法を医療関係者が実地経験することは重要である。特に、これまで日本でほとんど実施されてこなかった氷水浸水法については、東京2020では熱中症の標準治療法として実施されることになる。

IAAF H&Sは国際レース医学研究会 (IIRM) と共同で、マラソンの安全性を高めるための研修会を本年4月ボストンと10月ドーハで実施することを予定している。ドーハでは、熱中症対策、大気汚染とパフォーマンス、心肺停止、脱水と低ナトリウム血症の治療など、実際的な問題を取り扱う。IAAFラベルレースの多い日本での開催も検討中であり、多くの医療関係者の参加を期待したい。

IAAF ウェブサイトに 'Beat the heat' という熱中症予防の資料は有用であるので、一読をお勧めしたい。この中で、熱中症予防指標のWBGTの記載があるが、IAAFルールに記載されないことと各国陸連で取り入れられないことを指摘した。

国際陸上競技連盟 (IAAF) 競歩委員会会議 報告

今 村 文 男

国際陸上競技連盟 (IAAF) 競歩委員会会議が、2019年2月2日 (土) にIAAF本部のあるモナコで開催されIAAF競歩委員会のメンバーとして参加した。会議では、競歩種目の将来を見据えて、事前に各国陸連の競技者や指導者に対して通達した競歩種目の改革案に対する意見を精査し、より多くの時間をかけて議論した。

以下に示すのは今次会議の主な議題および協議事項と報告事項である。

日 時：2019年2月3日 (土) 9:30～18:00

開催地：モナコ公国 ノボテルホテル モンテカルロ

主催者：IAAF競歩委員会

議 題：開会宣言 (マウリツィオ ダミラノ委員長) / IAAF近況報告 / 前回議事録の確認 / 競歩種目の将来 / 主要競技会における競歩種目設定について / ロス・オブ・コンタクト電子判定システム開発状況 (進捗状況と今後の日程 / ルール改定作業部会の進捗状況 / 競歩チャレンジ (2018年実施報告 / 2019年日程 / 2020年検討) / 国際競歩審判員IAAFレベル (IRWJ) / 2018年の評価報告 (ロンドン開催) / 2019年と2020年の分担指名) / その他 (ルール変更の提案について / IAF (International Athletics Foundation) による判定研究報告

◆競歩種目改革案

東京2020オリンピック以降の競歩種目について、IAAF競歩委員会は、より短い距離の種目を含む、将来の競技プログラムについて、今日まで重ねてきた協議内容から、今は、大胆な改革を行うことが、競歩種目の成長と発展の実現に不可欠であると考えに至った。その改革案は以下。

- ・直近では世界選手権プログラムにて個人4種目を維持する (男子2種目、女子2種目 男女平等性を担保するため)。
- ・Race Walking Electronic Control System (RWECES) 競歩電子コントロールシステムを2021年までに大会導入。競歩種目における判定の信ぴょう性を担保し、現状と異なる距離導入を現実的なものにするため。この導入なくして、現在の距離を変えることは強く反対したい。
- ・競歩を判定する方法を変えることに加え、世間が競歩種目に魅力をより感じてもらえるように、主要選手権大会における距離も進化を遂げなければならない。シニア選手権で検討されている距離は10km (あるいは10,000m) と30kmである。U20 やそれより若く発展途上の競技者が競歩種目を続けられるように、若手年代の距離も変更を検討していく必要がある。
- ・これらの改革は2021年1月1日から発効とする。以上を委員会の改革案として、各国陸連内の競技者や指導者、競技関係者に対して、意見提供を依頼し、その意見を精査した。

◆改革案に対する関係各所の意見集約

- ・アスリートコミッション：競歩種目に関する様々な課題があり、取り巻く状況からして一連の改革案はやむなし。但し、距離変更については競技者側に時期尚早感が大きいようだという意見集約があった。
- ・コーチコミッション：新判定システムについては活性化につながるという肯定的意見の他、今後の普及をどのようにするかが懸案であるという意見。

男女4種目の実施について肯定的意見があったほか、種目距離の変更については賛否半々。また、肯定的意見の中にはU20以下の種目設定に対する問題提起の意見があった。

- ・競技コミッション：賛否保留の意見があった。
- ・国際競歩審判員IAAFレベル：種目距離変更によって種目活性化が期待できるという意見があったほか、新判定システムによって種目活性化が期待できるという意見があった。
- ・各国陸連：種目距離の変更については賛否半々であったが、新判定システムについては、異なる競技レベル間での判定基準の統一性が担保されるべきという意見があった。

◆委員会として意見集約

競歩委員会は、競技者や指導者、国際競歩審判員、各国陸連の意見を精査し、下記のように取りまとめ委員会案として、3月ドーハで行われるIAAFカウンシル会議 (理事会) に提案することになった。なお、下記はあくまでも委員会案であって決定事項ではないのでご注意ください。決定権は理事会有るので、今後の正式発表をお待ちいただきたい。

- ・男女の種目平等を担保するために、すべての主要な国際競技大会では、個人4種目 (男子2種目、女子2種目) を維持する。
- ・シニア種目の距離は、2023年の世界選手権大会から男女10kmと男女30kmに変更する。
- ・RWECES 競歩電子コントロールシステム技術は、2021年から導入。

今後の主要国際競技会の種目について、東京2020オリンピック：男女20km、男子50km、オレゴン2021世界陸上競技選手権：男女20km/男女30km、2022世界競歩チーム選手権：男女10km/男女30km、ブダペスト2023世界陸上競技選手権：男女10km/男女30km、パリ2024オリンピック競技大会：男女10km/男女30km、また、現在、2020東京に含まれていない女子50km競歩については、2018年12月のカウンシル会議で、IOCに実施種目として追加を提案したことが報告された。

◆報告事項

- ・ピットレーン名称変更
2018年の世界チーム選手権でも実施されたが、ピットレーンによる競技運営は普及した。今後はオリンピックを含むIAAF主催・共催大会で実施する。また、名称を「ピットレーン」から「ペナルティゾーン」に変更する。
- ・RWECES) 競歩電子コントロールシステム技術
2021年からの実用化に向けたシステムの実用性、信頼性の向上に向けて開発を継続する。
- ・IRWJ評価試験

IRWJ評価試験が2018年11月24日の日程でロンドンにて行われた。

次期4年間のIRWJの選抜は以下の通り
定員：23名 評価試験には現職のIRWJに加えて各エリアから以下の人数の候補者が参加した。アフリカ2名、アジア2名、ヨーロッパ5名、北中米カリブ2名、オセアニア2名、南米2名以上の候補者のうち、1カ国2名を限度として試験結果の上位23名を次期IRWJとして委嘱する。試験結果：アフリカ1名、アジア3名、ヨーロッパ14名、北中米カリブ2名、オセアニア2名、南米1名、以上、23名に次期4年間、委嘱を行うことになった。

2018-2019ダイヤモンドアスリート第4回リーダーシッププログラム報告

ダイヤモンドアスリートコーディネーター 田原陽介(環太平洋大学)

2020年東京オリンピックと、その後の国際大会での活躍が大いに期待できる次世代の競技者を強化育成する「ダイヤモンドアスリート」制度では、選出された競技者に様々なプログラムを提供し中長期的なエリートを育成します。本稿では、味の素ナショナルトレーニングセンターで実施された「リーダーシッププログラム」の第4回の模様を報告いたします。

第2回リーダーシッププログラム(平成31年3月4日)

【講義: 萩本欽一(タレント)】

長年芸能界でコメディアン、MC等様々な分野で活躍されている萩本欽一氏から、「印象に残るスポーツ選手」から「みている人を惹きつけるインタビューの喋り方」、さらに「芸能界で生きていくには」といった幅広いテーマから、参加者と意見を交換しながら講義が進行していった。主たる要点は、以下であった。

- ・どんなにすごいスポーツ選手でもいつかは仕事を变えなくては行けない。だが、それを悲観的に考えずに、「新たな仕事にチャレンジできる」とポジティブに考えなさい。
- ・オリンピックでは、言葉を残した人か、感動の絵を作った人しか人の印象に残ってこない。陸上競技で言うと、朝原宣治さんのバトンを投げたシーンなどが思い浮かびやすい。絵を作れなければ、テレビを見ている人にインタビューでどのような言葉を残すかが重要である。
- ・では、どのような言葉を残せばいいかといえば、今まで言葉を残した人から聞くことが早い。特に、今アスリート出身でテレビに出ている人たちは言葉を持っているので、その人に話しかけて、一味違うコメントを自分なりに残していくことが重要だ。
- ・人を笑わせる方法は、人と違うことを言えるかどうかが大仕事だ。正解は一つであるわけではないから、様々な表現をできるようにトレーニングしておくことを日ごろから取り組んでおくことよ。一番ダメなのは、わからないということ。テレビの世界では、それを言うこと次から呼ばれなくなってしま

ので、なんとか知恵を絞って回答しなくてはならない。

【アスリート委員会対談: 澤野大地(アスリート委員会)、朝原宣治(本プログラムマネージャー)、為末大(本プログラム監修)】

棒高跳選手として現役を続けながら、JOC理事や日本陸連アスリート委員や大学教員として活躍される澤野大地氏を講師として迎え、朝原宣治氏と為末大氏を聞き手として対談を行いました。

長く現役を続け活躍された経験を持つ3方から、「トップアスリートとして備えるべき発信力」をテーマに参加者を交えて進めていった。主たる要点は、以下であった。

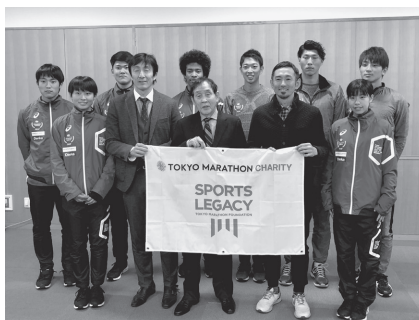
- ・トップアスリートになればなるほど、なんらかの情報を発信する義務がでてくる。様々な支援に応えるという意味もあるが、選手それぞれがパーソナリティーを発揮して、人気を下げ支える必要がある。
- ・発信するメリットとしては、お客さんが自分のことを認知してくれ、競技場に足を運んで応援してくれるようになったり、スポンサーが付きやすくなったりする。そのことが自分にとって好循環を生むケースもある。
- ・発信するには、前提としてコミュニケーション能力が高いことが求められる。実は、コミュニケーション能力が競技人生の終盤で競技力を左右する一つの要因であったケースもある。コミュニケーション能力が高いと、様々な人の考え方が入ることで視野が広がったり、支援してくれる人が増えたりすることにつながる。コミュニケーション能力を高めるには、そもそもコミュニケーションを取ろうとする姿勢が大事である。
- ・リーダーシップの本質もコミュニケーションが大きく関係しており、周りの情報をどう引き出すか、コーチとどういう関係を築くかということも、リーダーとして必要な要素である。
- ・他者と同じ発信をしては炎上等のリスクは少ないが、個性がでてこない可能性が高い。発信する以上、リスクが全くないということはないのである程度は覚悟しないと行けないが、グローバルな視点で差別的な発言や行動だけは知らなかつ

たでは済まされないので知識として持つておく必要がある。

【まとめにかえて】

全4回のリーダーシップ研修では、様々な講師をお呼びしアスリートとしての成長を促してきた。また、今年度より講話を聞くだけでなく、振り返りと発信もセットにしたアクティブラーニングを導入することにより、より内容を深める工夫を行った。また、アスリート委員会のご協力のもと、多くの陸上界の先輩方からアドバイスをもらい、ダイヤモンドアスリートの刺激となった。

講師を務めていただいた先生方、アスリート委員会の皆様に感謝を表するとともに、今後ともダイヤモンドアスリートへのご指導・ご支援よろしくお願いたします。



第1回日本陸連アスリート委員会・研修会 報告

◆開催概要

名称：第1回日本陸連アスリート委員会・研修会
期日：2019年1月26日（日） 13：00～17：00
会場：味の素ナショナルトレーニングセンター研修室
東京都北区西が丘3-15-1
目的：研修会を通じたチームワークの向上とアスリートの社会的価値向上
内容：
・グループワーク
講師 坂井伸一郎氏（株式会社ホープス）によるチームビルディング
・講演
講師 室伏広治氏（公益財団法人日本陸上競技連盟理事）による講話
・懇親会
参加者同士のコミュニケーション

◆背景

アスリートファーストという言葉が世間では発信されているが、本当のアスリートファーストとはアスリートたちが自ら立ち上がり、スポーツや社会に貢献していくことではないだろうか。そのためには陸上競技やスポーツ、世の中のことを学び、互いへの尊重を忘れずに競技に取り組めるアスリートが必要となる。我々アスリート委員会は陸上界、スポーツ界が発展していく中で、より多くのアスリートがアスリートとしてまた一人の人間として価値を高め、自分自身で考え、行動できる環境を創出するべくこの研修会を開催することとなった。

◆内容について

・グループワーク
【この勉強会の参加者を1000人にする】
【陸上界のために私たちがとるべきアクション】
自身の「価値観」を基に5つのグループに分かれ、上記のテーマについて議論。別のグループの途中経過を聴講できる時間も設けられた。最後はすべてのグループがそれぞれのテーマについてプレゼンテーションを行い終了。種目を越えてコミュニケー

ションが生まれたことはチームワークの向上という点から有意義であった。2つのテーマが相互関係になるような具体的な例や、「カニ食べ放題」で1000人集めるなど、現実的な意見やユニークな発想の意見が挙がった。今後も、参加者の想いが形になるように、委員会として活動していきたい。

・講演 アスリートの資質
オリンピック金メダリストでもある室伏広治氏からは、これまでの経験や自身が活動している現場からアスリートとしてあるべき姿についてお話を頂いた。
スポーツ界における陸上競技の立ち位置や現状、IOCや2020東京組織委員会でやっていることなど、現役選手の目線では見えない部分のお話はアスリートとして「今自分にできることは何か？」を改めて考える時間になっていたのではないかと。
また、競技への心構えや、取り組む姿勢のお話はこれから世界と戦っていくアスリートたちにとって重要な内容であった。

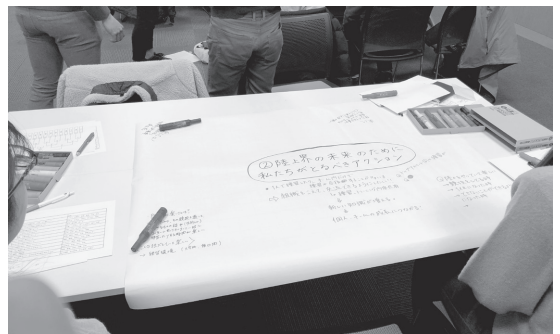
・懇親会
研修終了後、今後どのような研修会が開催されると良いか？などグループワークでの議論を改めて話せる場所として、またアスリートの繋がりをより深くできるようにセッティングした。

◆最後に

今回、参加頂いたアスリートの皆さんに一つでも多くの学びがあり、有意義な時間であったことを期待したい。研修会後のアンケート結果では、コンディショニング方法やセカンドキャリアへの対策、ランキング制度への取り組み方などを取り入れて欲しいとの要望があり、次回の開催に向けての参考にさせて頂きたい。その他、開催時期や連絡行程などにおいてもまだまだ改善の余地はあるが、さらに多くのアスリートが参加したいと思える研修会にしていきたいので、ご意見ご要望等あればアスリート委員会までお願いしたい。

坂井伸一郎氏、室伏広治氏にはお忙しい中、講師を引き受けて頂き感謝申し上げたい。

参加頂いたアスリートの皆さん今シーズンのご活躍を期待する。



2019JRDM活動報告

2019年3月2日(土)に2019ジャパンレースディレクターズミーティングを開催し、84大会、198名に参加いただいた。海外は8ヶ国からお越し頂き、国際色豊かな会議となった。本年は去る2018年11月13日に発足された日本陸上競技連盟のランニング普及プロジェクト「JAAF RunLink」の事業説明を中心に行われた。

【第1部】

- ・アボット・ワールドマラソンメジャーズ紹介
- ・尾縣貢(日本陸上競技連盟専務理事)
「日本陸連の2020年東京五輪へ向けた取り組み」
- ・早野忠昭(JAAF RunLinkチーフオフィサー)
「JAAF RunLinkの基本コンセプト」
- ・畔蒜洋平(日本陸上競技連盟新規事業室、JAAF RunLink総務統括部マネージャー)
「JAAF RunLinkの事業概要」

【第2部】

- ・山澤文裕(日本陸連医事委員会委員長)
「我が国における市民マラソンの心肺停止事例と医療救護体制」
- ・パネルディスカッション
「20代、30代女性のマラソン大会への参加について」
パネリスト
岡村徹也(名古屋ウィメンズマラソンレースディレクター)
上田唯人(走るひと編集長、JAAF RunLinkクリエイティブディレクター)
三原勇希(モデル、名古屋ウィメンズマラソンオフィシャルサポートランナー(2015~2017))



スポーツ振興基金

独立行政法人日本スポーツ振興センター

・アボット・ワールドマラソンメジャーズ紹介



アボット・ワールドマラソンメジャーズ(以下、AbbottWMM)の各大会から、代表者に参加いただき、現在行っているAbbott World Marathon Majors Wanda Age

Group World Rankings(アボット・ワールドマラソンメジャーズWanda年代別ワールドランキング)制度の紹介と、JRDM参加大会に対する本制度への加盟を呼びかけた。

【ランキング制度概要】

- ・Abbott World Marathon Majors Wanda Age Group World Rankings(アボット・ワールドマラソンメジャーズWanda年代別ワールドランキング)は2018年9月のBMWベルリンマラソンでスタートした。
- ・この新たなシステムは、40歳以上のランナーが世界中の大会で競い合う機会を与え、ランナーはAbbott World Marathon Majors Wanda Age Group World Championshipsへの出場を目指し、1年間の予選期間においてランキングポイントを獲得する。
- ・本制度に参画するためには、陸連公認大会であることが条件となる。

所属	登壇者
アボット・ワールドマラソンメジャーズ事務局 エグゼクティブディレクター	Tim Hadzima
ポストマラソン チーフエグゼクティブオフィサー	Tom Griik
VIRGIN MONEYロンドンマラソン チーフエグゼクティブオフィサー	Nick Bitel
BMWベルリンマラソン レースディレクター	Mark Milde
BANK OF AMERICAシカゴマラソン エグゼクティブレースディレクター	Carey Pinkowski
TCSニューヨークシティマラソン ヴァイスプレジデント	Chris Weiller
東京マラソン レースディレクター	Tad Hayano

・尾縣貢(日本陸上競技連盟専務理事)「日本陸連の2020年東京五輪へ向けた取り組み」



日本陸上競技連盟専務理事尾縣貢より2020年東京オリンピックに向けた施策の説明を行った。

- ・日本陸連は「JAAFF VISION2017」を策定し、「国際競技力の向上」と「ウェルネス陸上の実現」を2本柱とし、2040年には世界のトップ3、アスレチックファミリー300万人を目標に掲げた。
- ・2020年東京オリンピックへの施策として2019年、IAAF世界リレー横浜大会の開催、マラソングランドチャンピオンシップを開催する。
- ・その他女子リレープロジェクトや、ダイヤモンドアスリートの養成等を行い、2020年、その先に繋がるアスリート育成・強化を行っている。
- ・また、更にも中長期的な視点として競技者育成指針を策定し「陸上競技の普及」と「競技者の育成・強化」の両面を見

据えた競技者育成の方向性を具体的に示した。

- ・今後指針に基づき、競技会の種目の見直しや、指導者制度等の整備を行う。

各ステージと活動内容

ステージ	年齢	内容
1	0～6歳	楽しく元気に体を動かす(身体リテラシーの育成スタート)
2	6～12歳	楽しく陸上競技の基礎をつくる(身体リテラシーの継続的な育成)
3	12～15歳	陸上競技を始める・競技会に参加する
4	15～18歳	競技会を目指す・楽しむのための陸上競技
5	18歳～	高い(究極の)競技パフォーマンスを目指す
6	～生涯	アクティブアスレティックライフに向けて

・早野忠昭(JAAF RunLink チーフオフィサー)「JAAF RunLinkの基本コンセプト」

JAAF RunLink チーフオフィサー早野忠昭より JAAF RunLink の基本コンセプトについて説明を行った。

- ・2018年11月13日に JAAF RunLink 発足会見を行い、茂木健一郎氏、堀江貴文氏にアドバイザーへ就任いただいた。
- ・年1回のジョギング・ランニング人口は2012年にピークを迎えて以降減少傾向にある状況を改善し2040年に2000万人にすることを目指す。
- ・全国2000あるとも言われる大会のうち200大会が陸連公認大会であったが、今後より多くの人たちにロードレース、ランニングイベントの魅力を感じていただくため、非公認大会も含めた緩い連携が必要となる。
- ・その中でも最低限守るべき、安全・安心の基準づくり及び基準を満たすためのサービス開発を行っていく。
- ・また、ランナーだけでなくより多くの企業にランニング及び大会の魅力を感じていただくために「賛助会員制度」という形で、一業種一社ではない関係性を構築していく。
- ・中心的なコンセプトにフュージョンランニングというコンセプトがあり、走ることに関する様々な価値を融合させ、ランナーが魅力的に感じるサービスを構築していく。
- ・JAAF RunLink は大会の記録データをベースに様々な企業と連携を通じてランニングに関する情報を一元管理し、ランナー自身、大会、その他企業、研究機関等に還元することでランニング業界全体の底上げを目指す。



あびる

・畔蒜洋平(日本陸上競技連盟新規事業室、JAAF RunLink 総統統括部マネージャー)「JAAF RunLinkの活動概要」

日本陸上競技連盟新規事業室畔蒜洋平より、JAAF RunLink の大会に関する取り組みについて説明を行った。

- ・JAAF RunLink は大会に対する取り組みとして「大会の運営基準づくり」と「大会運営支援」を行うと共に、「JAAF RunLink 加盟大会」と称して、陸連非公認大会を対象に行政、メディア、陸協が主催、共催、協力、後援等に関わる

大会の募集を行う。

「大会運営基準づくり」について

- ・ロードレースは基本的に「陸上競技ルールブック」と「審判ハンドブック」に基づいて競技が行われている。ただし、記載事項の対象は競技志向のエリート選手に対する内容であり、仮装の是非等、一般ランナーに対して言及するものではない。
- ・また海外で当たり前に行われている「ウェーブスタート」の方式や、「ネットタイム」の取扱等は統一した解釈の下での運用がされることが望ましい。
- ・従来、上記の事項について日本陸連としては各大会主催者の判断に一任をしてきたが、JAAF RunLinkを通じて課題・情報の集約を行い、解釈の統一を図っていきたい。

「大会運営支援」について

- ・過去JRDMを3回開催し、主催者から要望が最も大きい補償内容の統一化について、「日本陸上競技連盟ロードレース補償制度」を新たに構築し、ランナー・競技役員へ対する「傷害事故」「疾病事故」に対応すること、食中毒等の「賠償責任」に関する事項を陸連が定める最低限の基準として設け、陸連公認大会・JAAF RunLink 加盟大会が本制度を利用することが可能とする。
- 今後、本会のような大会主催者が集まる機会を増やして、テーマごとに課題をディスカッションし、主催者とともに基準づくりをしていきたい。



・山澤文裕(日本陸上競技連盟医事委員会委員長)「我が国における市民マラソンの心肺停止事例と医療救護体制」

日本陸上競技連盟医事委員会委員長山澤文裕より、医事委員会で行ってきたロードレースの心肺停止事例の調査結果及び各種取り組みについて説明を行った。

- ・2004年以前までは、ロードレース中の心臓突然死が17件あり、40代、50代に多く見られたが、若年層もいる状況が分かった。
- ・フルマラソンだけではなく5km程度の大会においても事故が発生しており、いずれもフィニッシュ後を含むレース後半に多く見られる傾向にあった。
- ・多発する事故を受けて日本陸連の取り組みとして2002年に日本陸連より競技者・主催者に注意喚起、2004年にマラソン主催者向けのセミナーを開催、2013年～2017年にマラソンメディスンセミナーを開催することで、安全に関する啓蒙活動を行ってきた。
- ・東京マラソンは2007年～2018年において、心肺停止事例が11件、突然死は0という状況である。36,000人に1人の割合で発生している状況。
- ・日本全体の心配停止発生率は64,000人に1人の割合である。(日本陸連医事委員会調べ)

- ・今後の課題としては、国際陸連にて定められた安全基準に関するガイドラインにはAEDの設置数に関する記載がない状況である。
- ・日本陸連医事委員会としては、参加者1000人あたり、少なくとも2台のAEDを準備し、特に30km以降フィニッシュ地点に重点的に配備することを推奨し、今後JAAF RunLinkの基準づくりに反映していく。
- ・主催者だけでなく、ランナーに対して心肺蘇生法の理解促進やヘルスリテラシーの向上等を行い参加するランナー側の意識を高めていくことも重要であることも指摘した。



・パネルディスカッション パネリスト

岡村徹也(名古屋ウィメンズマラソンレースディレクター)
上田唯人(走るひと編集長、JAAF RunLink クリエイティブディレクター)
三原勇希(モデル、名古屋ウィメンズマラソンオフィシャルサポートランナー(2015~2017))
「20代、30代女性のマラソン大会への参加について」



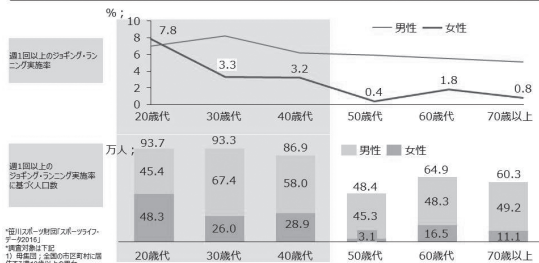
(畔蒜)

- ・JAAF RunLinkはランニング人口拡大を目指すうえで、20代、30代女性をターゲットにしていきたいと考えている。
- ・マラソン大会の参加者は40代、50代が中心であるが、週1回のジョギング・ランニング人口は20代、30代が最も多く、20代は女性の方が男性より多い状況。
- ・JAAF RunLinkは、スポーツ人口拡大に寄与すべく20代、30代の女性ランナーを更に増やすと同時に、大会に興味を持っていただく仕掛け作りを行っていきたく考えている。
- ・20代30代女性に支持される雑誌「走るひと」の編集長上田氏に、モデルでありランナーの三原勇希さん、世界一のウィメンズマラソンである名古屋ウィメンズマラソンのレースディレクターである岡村氏によるディスカッションをお願いした。

(三原)

- ・痩せたいという思いから始めたランニングだが、仲間と共に走った写真をSNSに上げることで、ランニングがコミュニケーションのツールとなっていき、走ること自体が楽しいと思えるようになった。
- ・また、走ることで気持ちにも良い効果が現れることを実感しているの、辛いことがあったとき等は走るようにしている。

週1回以上のジョギング・ランニング実施率・人口数



20代、30代、40代のスポーツ実施率が高い

©2018 Japan Association of Athletics Federations. All Rights Reserved.

- ・普段はひとりで走ったり、あとは同世代の女性たちのランニングコミュニティを作って、公園や街中をみんなで走ったりしている。距離は大体3キロから4キロ程度走っている。
- ・大会に出て感じた魅力は、普段のモデル活動だと数字で客観的に評価されることなかなかないが、マラソン大会では数値で結果が出るので、日常では味わえない達成感があり、大会にも継続して参加をしていきたいと思うようになった。
- ・今後、大会に向けて期待することは、本番に向けた練習から一緒にできるような機会があるのもっと楽しくなると思う。

(岡村)

- ・名古屋ウィメンズマラソンでは、世界で女性が一番輝く日、走る女性が扇動して新しい風を吹かせる、というコンセプトを掲げる。
- ・女性が一番輝くゴールシーンから逆算し、荷物預け・着替え・トイレ・スタートと、走る女性をサポートするような仕組み、環境を整えている。
- ・運営側が苦手なマーケティング分野を、スポンサー企業の力を借りることで、大会づくりに寄与している。
- ・地域や、教育機関なども回った経験がある。共有・共感が広がるような行動パターンを作ることが成功への鍵ではないか。
- ・ランニング実施率は現在男女比率で7:3程度である。欧米は1:1の比率となっている。女性ランナーの掘り起こしに成功出来れば、JAAF RunLinkの描くランニング人口の曲線を描けるのではないかと。

(上田)

- ・名古屋ウィメンズマラソンは、ポスターのデザインをスポンサー企業であるニューバランスにある程度委ねており、企業のブランドコンセプトを出しやすい大会であるように感じられた。大きなコンセプトがあるからこそ各スポンサーが自由な取り組みができる。
- ・今後、企業に対して裁量がある程度与えられることは大きなメリットであると思うので、名古屋ウィメンズのような企業との関わり方が他のマラソン大会にも増えてくると特色が出てきて面白いのではないかとと思う。
- ・クリエイティブに携わる身としては、RunLinkを通じて大会のビジュアル等をアップデートして大会の魅力を若い世代にも発信していきたい。

一般入場券のご案内

前売り券ご購入の方のみ公式プログラム付（B席以外）!!

開催日当日、会場のプログラム販売所でチケットと引換にお渡しします。

座席	前売	当日
SS席／小学生以上（指定席）※応援Tシャツ付	8,000	8,500
テーブル付シート（指定席）※ドリンク付	5,500	6,000
S席／小学生以上（指定席）	4,000	4,500
A席／一般（ブロック指定席）	3,000	3,500
A席／小・中・高校生（ブロック指定席）	2,000	2,500
B席／一般（ブロック指定席）	1,500	2,000
B席／小・中・高校生（ブロック指定席）	1,000	1,000

※小学生未満無料。但し、指定席券内にて座席を必要とする場合は指定席チケットを要購入。

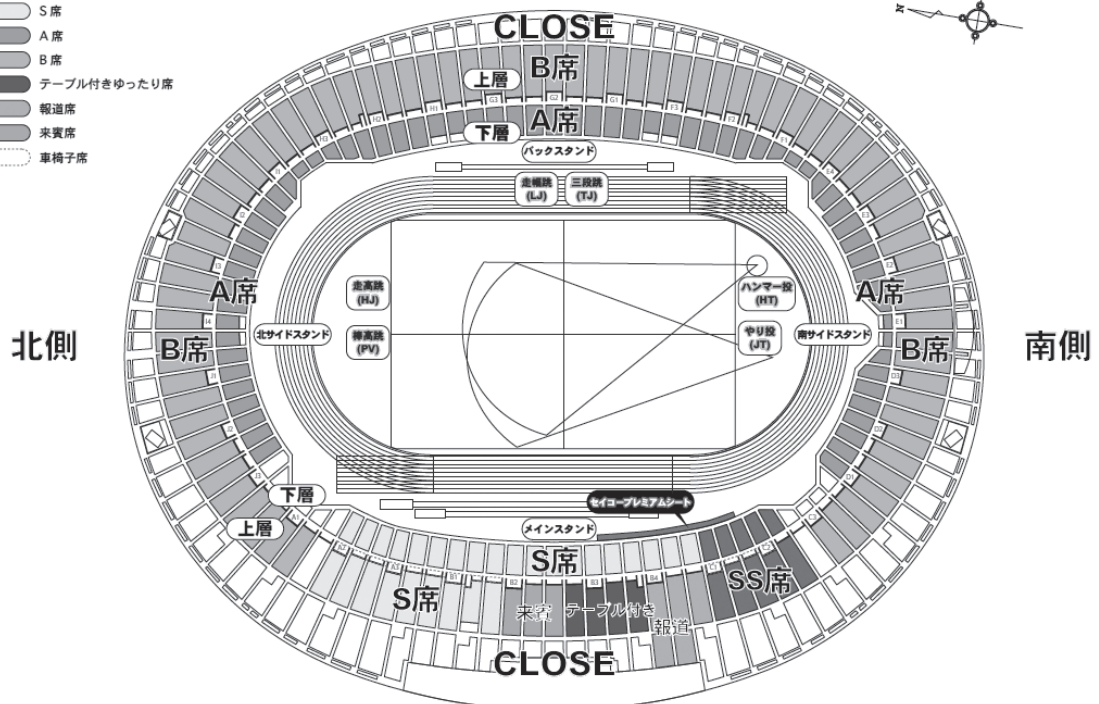
※指定席からB席の移動可能。

※シルバー割引（当日券のみ）は、60歳以上の証明書提示にて一般料金より50%割引（B席対象）。

※障害者割引（当日券のみ）は、証明書提示にて一般料金より50%割引、付添人1名まで同一料金（B席対象）。

※各種割引詳細、車椅子席等のお問合せは大会問い合わせ窓口まで。

- セイコープレミアムシート
- SS席
- S席
- A席
- B席
- テーブル付きゆったり席
- 報道席
- 来賓席
- 車椅子席



※風向きなどにより、競技位置が変わることがあります。ご了承ください。



JAAF OKAYAMA 一般財団法人岡山陸上競技協会

〒700-0012 岡山市北区いづみ町2-1-11 岡山県陸上競技場内
TEL.086-214-3156 FAX.086-214-3156
http://www.tiki.ne.jp/oka-rikkyou/

2019年度のシーズンが始まりました。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会までいよいよ1年となる今年、競技力という点からは、県勢からどれだけ多くの代表選手を出せるかという課題のいよいよ仕上げの1年となります。

一方、地方都市では世界各国から大会に参加する選手団の事前キャンプの誘致、選手受け入れに向けた準備等も課題となってきました。

岡山でも陸上のスペイン代表の事前キャンプ受け入れ協定が今年1月、岡山県、岡山市、岡山陸上競技協会とスペイン陸上競技連盟の4者の間で締結されました。

スペイン陸上競技連盟は昨年4月、岡山県陸上競技場を視察しました。2016年のインターハイ、2018年の全中と全国大会を開催し、たくさんの方が岡山県陸上競技場を訪れ、ご存知方も多いと思いますが、岡山県陸上競技場はJR岡山駅から歩いて行ける距離で、岡山空港へのアクセスも非常に良いスタジアムです。さらに、周辺には宿泊施設も多く、スペイン陸上連関係者もこの点を高く評価しての事前キャンプ地決定となったようです。

さて、スペインと言えば、岡山出身の有森裕子さんが1992年のバルセロナオリンピック女子マラソンで銀メダルを獲得した地です。どことなく縁を感じてしまいます。

あの時、有森さんに送られた声援を今度は我々がスペイン代表選手に送る番です。大会で最高のパフォーマンスを披露できる練習環境の整備はもちろんのこと、岡山で最高の思い出を作ることができるよう、関係各所と協力していきたいと思っています。

JAAF HIROSHIMA 一般財団法人広島陸上競技協会

〒730-0011 広島市中区基町4-1 県立総合体育館
(公財) 広島県体育協会内
TEL.082-223-3256 FAX.082-222-6991
http://hiroshimaf.org/

「走ることが好き、歩くことが好き、走る人を応援するのが好き。ワクワクする気持ち!そう、あなたも陸女!!」を合言葉に、広島陸上競技協会 三宅勝次会長発案の陸女構想を広島で展開して2年。着実に広がりを見せている。

1月の全国男子駅伝では、広島東洋カーブとコラボして、「RIKU☆JO缶バッジ」を作成し、無料で1000個配布した。早くから並んでバッジをゲットした年配の陸女は、ガッツポーズし、すぐにカバンに付けておられた。赤ちゃんからお年寄りまで、「あなたも立派な陸女!!」を自覚していただくため、並んでくださった皆様一人一人にバッジを手渡した。

2月は、JAAF女性指導者のためのコーチングクリニックが広島で開催された。日本陸連の皆様をお迎えして、女性スタッフで手伝った。指導者、参加者、運営スタッフ、皆、缶バッジを付け、一体感を味わった。運営に携わらせて頂いたことは、広島の女性スタッフにとって宝に値する経験となった。その1週間後に開催した中国女子世羅駅伝は、広島の女性審判が中心となって大会を運営する。全員そろいの服に缶バッジを付けて、審判にあたった。

3月のRCCひろしま女子駅伝では、選手全員にバッジを配布したところ、ユニフォームに付けて楽しそうに走っている姿が多く見られた。可愛い!欲しい!との声も多く、作ってよかったと胸をなでおろした。

4月の織田記念では、国際平和マラソン女性入賞者を招待して、プレゼンターに起用。まだまだ、これからも、陸上競技発展につながる広島らしい発信ができるよう努めたい。 to be continue...

(文責:企画広報委員長 藤原文代)

JAAF YAMAGUCHI 一般財団法人山口陸上競技協会

〒753-0815 山口市維新公園4-4 維新百年記念公園陸上競技場内
TEL.083-920-6125 FAX.083-920-6125
http://yaaf.jp/

山口陸上競技協会は、国体が開催された2011年より一般財団法人化を行い、今年で9年目に入ります。2019年は第5期の1年目となり、組織の改編や専門委員会等の見直しを行い、本県の陸上競技の発展のために尽力して参ります。

山口陸上競技協会の主要大会が年間を通じて開催され、長年、維新百年記念公園陸上競技場の名称で親しまれてきた競技場が、昨年よりネーミングライツにより「維新みらいふスタジアム」と名称変更をしました。気持ちも新たにスタートしています。

今年は8月に中国選手権・中学中国選手権大会が行われるため、関係者が準備のための会議や打合せを随時行っています。記録会や競技会で競技役員のスキルアップをめざして審判講習会・実技研修会を計画的に行っていきます。また、今年で16回目を迎える田島直人記念陸上競技大会が一昨年より日本陸連のグランプリシリーズと位置付けられ、10月20日(日)開催となりました。2020月の東京オリンピックに向けても大切な大会となるため、協会一丸となって取り組んでいく所存です。

また、最近では山口県出身選手の活躍が目立っています。8mジャンパーの小田大樹選手(ヤマダ電機)、ニューイヤー駅伝等で活躍した田村和希選手(住友電工)らの活躍は我々を勇気づけてくれました。関東インカレで1年生チャンピオンに輝いた宮本大輔選手(洛南高校→東洋大学 周南市周陽中出身)の活躍からも目が離せません。

3月第1週からは早々と強化記録会も行われ、2019年のトラックシーズンに向けても徐々に盛り上がりを見せています。

(文責:事務局長 藤田昌彦)

JAAF TOKUSHIMA 一般財団法人徳島陸上競技協会

〒770-0044 徳島市庄町5丁目27-4 杉本様方気付
TEL.088-635-6181 FAX.088-635-6181
http://www.jaafokushima.com/

オリンピック・パラリンピックを翌年に控え、日本国中でスポーツが一層の盛り上がりを見せるなか、本協会では徳島カーニバルを皮切りに、2019年のシーズンが始まりました。冬季シーズンの間、厳しいトレーニングに取り組んできた強化練習会や合宿などの成果を十分に発揮して欲しいと思います。

昨年本県の活躍を振り返ると、日本選手権では昨年を上回る7名7種目の入賞を果たし、日本学生対校選手権大会では男子砲丸投で生光学園高校出身者が1位から3位までを占める快挙を達成しました。また、全国高校総体では大地彩里選手(徳島市立)の優勝を含む、4種目で入賞することができました。

徳島では2022年にインターハイの開催が予定されています。メイン会場であるボカリスエットスタジアムやサブトラックの改修などハード面の準備は進んでいますが、大会運営を成功するために絶対必要な審判員の確保や審判技術のさらなる向上などが課題になっています。資質向上に向けたソフト面の向上が大会成功の絶対条件になってきます。

また強化対策にも取り組み、中学生や高校生などの校種の枠を超えた選手の強化育成を進めるとともに、若手指導者の育成も進めたいと考えています。今後全国大会での活躍と陸上競技の県内発展を協会一丸となって取り組んでいきたいと思っています。

(文責:強化委員長 川井賢一)

事務局からのお知らせ

◆◆この瞬間を見逃すな！「IAAF 世界リレー 2019 横浜大会」チケット絶賛発売中！◆◆

2019年5月11（土）、12日（日）の両日に横浜市（横浜国際総合競技場）で日本初開催となる「IAAF世界リレー 2019 横浜大会」。キャッチコピーは「4人で、4人を超えろ。」4人の力で世界と戦い、東京五輪へと続く2019シーズン注目の大会です。日本代表応援Tシャツ付きのジャパンサポーターズシートもありますので、ぜひスタジアムで応援しましょう！チケット絶賛発売中!!

<大会特設WEBサイト>

<https://iaafworldrelays.com/yokohama2019/>

4人で、4人を超えろ。

**IAAF World Relays
YOKOHAMA 2019**
セカイリレーヨコハマ

IAAF世界リレー2019横浜大会
2019/5/11(SAT)・12(SUN) 横浜国際総合競技場

4×100mリレー (男子) 4×200mリレー 4×400mリレー (男子)
4×100mリレー (女子) 4×200mリレー 4×400mリレー (女子)
2×2×400mリレー ショートリレー

主催: 国際陸上競技連盟 共催: 日本陸上競技連盟 共同主催: 横浜商 運営協力: 神奈川陸上競技協会
テレビ放送(予定) TBS系列生中継

@IAAFYokohama19 | www.iaafworldrelays.com/yokohama2019

SPONSORS: asics QNB SEIKO TDK TBS

世界リレーの最新情報は **世界リレー 横浜** で検索！

【公式SNS開設】

Twitter @IAAFYokohama19
Instagram <https://www.instagram.com/IAAFYokohama19>
Facebook <https://www.facebook.com/IAAFYokohama19/>

陸連時報編集委員

◇編集委員

横川 浩 (陸連会長)
友永 義治 (陸連副会長)
八木 雅夫 (陸連副会長)
尾縣 貢 (陸連専務理事)
麻場 一徳 (陸連強化委員長)
風間 明 (陸連事務局長)
高橋 克実 (陸上競技マガジン編集長)

◇時報編集室責任者

大嶋 康弘
◇時報編集担当
繁田 進
石塚 浩
木越 清信
宮田 宏
廣瀬 静香

陸連時報編集室

〒163-0717
東京都新宿区西新宿2-7-1
小田急第一生命ビル17階
公益財団法人日本陸上競技連盟 内
TEL 03-5321-6580
FAX 03-5321-6591
WEBサイト <http://www.jaaf.or.jp/>
公式動画サイト <http://japanathletics.tv/>